



書店でふと手にした本が、学生時代好きだった作家、大人になってもう読まなくなってしまった作家だった時、懐かしいような、その作家を裏切ってしまったような、複雑な気持ちになります。そして作家のほうも、読まなかった間に作風が変化していて、違う人の作品のようになっている時もあります。再会を新たな運命の出会いと信じて、ここはひとつ、読まなければ済まなくなってきます。皆さんも、高校時代に好きな作家をひとりもっておくと、大人になった時に楽しみが増えますよ。

本の話

数学科 柏原政孝

【今までの読書】

小学生の頃は、父親の本棚にあった推理小説（西村京太郎や赤川次郎）を好んで読んでいました。中学生の頃は映画「ぼくらの七日間戦争」の影響もあり宗田理の「ぼくらシリーズ」ばかり読んでいたように思います。なぜか、高校生の時は勉強ばかりしていたわけでもないのですが、あまり読書をした記憶がありません。大学に入ってから小説（石田衣良や松岡圭祐）だけではなく、興味のある分野の書籍（天文や相対性理論に関するもの）も少し読んでいました。

今まで読書のきっかけは様々でした。目の前にあったから、書店で目立つ所に置いていたから、映画等で気になったから、自身の勉強のため、落ち込んでいるときに読書をしようと思った時もありました。私の本棚には読まれずに埃を被ってしまっている本もたくさんありますが、まず図書館に足を運んで一冊の本を手にとってみてください。

鈴木光司『ブルーアウト』

【この本を手にしたきっかけ】

働かだしてから読書をする機会は多い方でしたが、子供が生まれてからは書店で本を買うこともなく、6年以上読書をしていませんでした。ある日、書店で和歌山県のコーナーが設置されていました。そこには濱口梧陵に関する書籍の他に、エルトゥールル号の遭難事故に関する書籍が並んでいました。昨年上映された『海難 1890』（日本とトルコが友好 125 周年を記念して、エルトゥールル号遭難事故やテヘラン邦人救出劇を描いた映画）の横に『ブルーアウト』という書籍を見つけました。学生中に読んでいた作家の一人である「鈴木光司」



好きだった作家と再会『ブルーアウト』 柏原政孝

が書いた、エルトゥールル号の遭難事故を題材にしたフィクションでした。

【鈴木光司とは】

1957年5月13日、静岡県生まれ。慶應義塾大学文学部仏文科卒。90年に『楽園』が日本ファンタジーノベル大賞優秀賞を受賞し、作家デビュー。『リング』（91年）、『らせん』（95年）、『ループ』（98年）、『バースディ』（99年）のホラーシリーズ4作品がベストセラーとなり、『リング』『らせん』は映画化されて大ヒットした。

【エルトゥールル号遭難事故とは】

1890年9月、オスマン帝国の親善訪日使節団を乗せた軍艦「エルトゥールル号」は帰国の途中、和歌山県串本沖で台風に遭遇、遭難し、500名を超える犠牲者を出した。この未曾有の大惨事の中、地元住民たちの献身的な救助活動により、69名の乗組員が奇跡的に母国トルコに生還した。

【テヘラン邦人救出劇とは】

1985年3月17日。イラン・イラク戦争の中、イラクのフセイン大統領が48時間後以降にイラン上空を飛び飛行機をすべて攻撃すると宣言しました。イランに滞在していた外国人は、こぞって国外脱出を図りましたが、日本人だけは取り残されていました。それは、各国の航空会社が自国民を優先して搭乗させる為で、テヘランに乗り入れ便を持たない日本は脱出に不利な状況であったからです。日本政府は安全の確保が難しいと専用機の派遣に踏み切ることができません。まさに、絶体絶命の危機でした。その時、日本人の救出に尽力してくれたのがトルコでした。専用機を2機飛ばし、自国民よりも日本人を優先して搭乗させてくれたのです。

【トルコと日本の関係について】

エルトゥールル号遭難事件をはじめとして、長い間ロシアの支配に苦しまれてきたオスマン帝国時代に日露戦争で一矢報いたことなどから、アジア近代化の中で先端を行く日本に対して、トルコ側は“勤勉で義理堅く優秀な民族”というイメージを持たれていたらしい経緯がある。他、言語学の方面からトルコ語と日本語の類似点を理由に、モンゴル高原に起源をもつ兄弟民族として親しみを持つトルコ人も多いという話もある。「仲の良い兄弟がモンゴル高原で別れ、太陽を追いかけて東に行った方は日の丸を国旗とする日本を建国し、月を追いかけて西に行った方は新月を国旗とするトルコを建国した」という、両国の国旗を対比したロマンチックなエピソードもある。

エルトゥールル号遭難事件、テヘラン邦人救出劇に続き、1999年に起こったトルコ北西部大地震では、日本側は惜しみない支援を送った。また、2011年3月11日。日本は未曾有の大惨事に直面しました。史上最大の大地震と津波が多くものを飲みこみ、そして奪っていきました。海外から寄せられた様々な支援は、被災者のみならず我々日本人に大きな勇気を与えてくれ、特に、ヨーロッパからはトルコがいちはやく救援隊を派遣してくれました。そして、同、10月23日。トルコ共和国東部ワン近郊にて同じくマグニチュード7.2ともいわれる大地震が発生し、多くの死傷者が出ました。そこへ、多くの日本人が救援にかけつけました。

